

第2回定例道議会 一般質問(6月29日)

おおこし道議が本会議デビュー!!

女性活躍など重要課題を堂々と追及



1.道と札幌市の 二重行政について

おおこし道議 6月に道と札幌市による行政懇談会が開催され、行政の効率化に関して意見が交わされた。道営住宅と市営住宅など、機能が重複する6施設の運営について検討が進められてきたが、今後どのように協議を進めるのか。

総合政策部長 今回の懇談会で合意した政策ミーティングを開催して検討を深めるとともに、利便性の向上、行政の効率化に向けて協議を加速していく。

2.観光振興について

おおこし道議 来年3月に北海道新幹線が開業する中、どのよ

うな展望を持って観光振興に取り組むのか。
知事 外国人観光客300万人の実現に向けてプロジェクトチームを立ち上げ、対応を検討するとともに、地域の受け入れ体制や新たな商品開発などへの支援拡充を図っていく。

3.ヘルシーDOLLSについて

おおこし道議 健康な体づくりに関する科学的研究が行われた食品を認定する北海道食品機能性表示制度「ヘルシーDOLLS」は、食の付加価値向上にとって重要である。今後どう食関連産業の振興につなげていくのか。
知事 多くの企業に制度が活用され、道産食品の競争力強化につながるよう、認定に向けた支援や認知度向上に努めていく。

4.女性活躍社会について

おおこし道議 平成25年度のDV被害相談件数は1万2902件で、増加傾向にある。被害を受けた女性に対し、しっかりと支援を行うことは、すべての女性が輝く北海道を目指す道の責務であ

る。道立女性相談援助センターの機能充実にどう取り組むのか。
環境生活部長 被害相談が増える中、電話受付時間を平日夜間と休日にも拡大するための予算案を今定例会に提出している。

5.学力向上について

おおこし道議 未来を担う子どもたちに確かな学力をつけさせることは、重要な課題である。親が勉強を見ることができない家庭も多くあるが、家庭学習の習慣化を図るために、どのように取り組んでいるか。
教育長 保護者と地域、教員が学力向上について考える会を各地で実施したほか、ウェブページに独自のテスト問題を掲載する取り組みを進めている。



飲酒運転事故の根絶に向けて 自民党が道条例制定へ全力!

道議会自民党の検討会は6月25日、飲酒運転による交通事故の被害者遺族のヒアリングを実施しました。同検討会は、昨年7月に小樽市銭函で海水浴帰りの女性3人が死亡した事故を受けて設立されました。遺族らは、「飲酒運転の恐れがある場合の通報努力」「検挙者への指導の義務化」などを盛り込んだ条例制定を求めました。おおこし道議は「悲惨な事故がこれ以上起きないように、全力で取り組んでいきたい」と述べました。



委員会質問でも大活躍、 道幹部から答弁引き出す

おおこし道議は、6月2日の総務委員会で当選後初めて質問に立ち、「道職員の朝方勤務」について道の見解をただししました。朝方勤務は夏季の始業時間を前倒し、長時間労働や残業を含む生活スタイルの見直しを目的に政府が推進しているもので、地方公務員にも実施の動きが広がっています。

おおこし道議は「ワークライフバランスの推進は極めて重要

であり、職員が北海道のすがすがしい気候を楽しめる勤務体系をつくってほしい」と迫り、これを受け、道は7~8月、職員が希望すれば、勤務開始時間、終業時間を1時間前倒しできる制度を開始しました。

また、7月9日の総務委員会では、今夏は開設されないことが決定した海水浴場「おたるドリームビーチ」の監視体制などについて質問しました。